

Partner

パートナー Vol.42 2012.3 蕨市

蕨市男女共同参画情報紙

パートナーとは…

女性と男性が共に明るい地域社会を築き上げようという意味と、市民の皆さんと市が共に手をたずさえていこうという願いが込められています。



イクメン
大賞

第3回

イクメンカジメン
フォトコンテスト

平成23年度蕨市男女共同参画作品募集事業

結果発表

カジメン
大賞

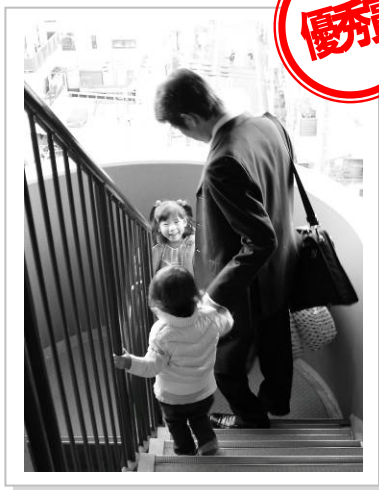


「僕だって できるよ！」

たむら ともみ
田村 知美 さん

「父ちゃんをやっつけろ！」

ひらの けんたろう
平野 健太郎 さん



優秀賞

「パパ いこうよ！」

いけだ ゆい
池田 由比 さん



優秀賞

「海辺の秘密」

かねひろ ようこ
金弘 葉子 さん

今回はイクメン部門19点、カジメン部門5点の作品が21名の皆様から寄せられました。ご応募ありがとうございました。審査の結果「イクメン大賞」「カジメン大賞」「優秀賞」2点が決まりましたのでご紹介します。

男だって地域活動を 楽しんでるぞー!!



特集
男たちの
地域活動

～錦町版「もしドラ」は男たちの熱い思いがたっぷり～

今年度の「子ども会育成連合会第十回ドッジボール大会」で錦町支部の小学年チームが優勝し、「春の全国小学生ドッジボール埼玉大会」への出場を決めました。その陰には、子どもたちと真剣に向き合い、ドッジボールを熱く指導する男たちの姿がありました。そんな皆さんに会ってみたいと、錦町支部でドッジボールの指導をする9人が集まってもらい座談会を行いました。ちよっぴり照れながら語ってくれた本音の中には、『男性の地域デビュー』のヒントがありそうです。

やりたいことを ハッキリさせる

元気な女性たちに支えられている地域活動。女性子どもがいると、公園デビュー、PTAデビューと必要に迫られて地域との関わりを持ちはじめます。ところが男性の場合、地域デビューの必要に迫られることはあまりないので、地域との関わりを持たない男性が多いのです。でも、この錦町の「おじさん」たち（親しみを込めてこう呼ばせていただきます）は、「これがやりたい」という明確なものを持ち、地域活動を楽しんでいました。それは、「ドッジボール大会で優勝し、子どもたちを県大会へ連れて行く！」ということでした。「もしドラ※」の川島みなみが「野球部を甲子園に連れていく」という目標を持ったように。

※ 岩崎夏海著「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネージメント』を読んだら」の略。

ドッジボールの指導を はじめたきっかけは？

- 誘われた
- 頼まれた
- 自分の子どもがはじめたから

などでした。

「おじさん」たちは「自分が必要とされているんだ」と感じると「地域デビュー」という大きな壁も乗り越えられるようです。ただ、「お誘い」「お願い」されても一回ですんなり引き受けることはないみたい…。実は、何回も声をかけてもらおうのを待っているようです。恥ずかしがり屋が多いのでしょうか（笑）。

「昔は近所に必ずいたよね。
こわいおじさん…。」

「いたいた。俺なんかよく叱られたよ。でも、このおじさんに世の中の“いい悪い”を教えてもらってたんだよなあ。自分が大人になって、改めて、叱ってくれたおじさんに感謝してる。」

「叱るのは大人の役目。だから俺は、保護者から許可を得て“こわいおじさん”やってるんだ。」

「子どものためにやってるから、休日のたびにいなくてもカミサンはイヤな顔はしないな。」
「でも、たまには家族サービスもしないとって思ってるよ。」

「ドッジボールの指導は大変だよ。練習の時なんか、なかなか言うことを聞かないからね。でも、試合の時は、子どもたちも不安なのか『監督～』なんて頼ってくれるところがかわいいんだよね。」

「そうそう、みんなのオヤジになった気分になるんだよねえ。」

「守ってあげたいって気持ちになる！」



おやじの座談会トーク

「自分の子どもが参加していなくても、地域の子どもたちのためにやるっていうのが、本当の地域の活動だと思うな。」

優勝できたのは…

- 子どもたちが真剣だった
- おじさんたちも真剣だった
- 子どもたちもおじさんたちも楽しんでいた

子どもは、親以外の大人に接することで社会性が身につくといわれます。地域で子どもを育てることや見守ることを楽しみながらできたら、言うことナシ。大人も子どもも「行ってみたい楽しかった」次もまた行こう。」これが大切ですね。

○ 最後は、「おじさん」たちのマネー

ージメントカ(りょく)

サラリーマン集団のこの「おじさん」たちは、知らず知らずのうちに自分たちが持つマネージメント力を発揮していたようです。みなみは「野球部とはなにか」をドラッカー流に考え

「応援してくれる人に感動を与えるための組織」という答えを出しました。「おじさん」たちはドッジボールチームを指導する自分自身、そして真剣に頑張る子どもたちに「感動」を求めていたのでしよう。会社でもなく、家でもないところで自分を発揮して…。

町会でもなく おやじの会でもなく

地域活動といえ、まずは町会でしょう。町会の役員は高齢化が進み、若い人の参加を求めています。参加しづらいのが現状です。既存のおやじの会も年齢が上がってきており、子どもの年齢が違うことから、若い人とは話が合いません。若いうちは話がかみ合わないこともあるようです。そして、この二つに共通する「地元意識」も話題にありました。

誰でも参加できる

はじめの一步

誰でも参加できる「地域活動」や「地域のイベント」って何があるの？

・クリーンわらび市民運動

6月と12月の年2回、まちを一斉にきれいにします。

・体育祭

蕨市体育協会では毎年10月に支部体育祭を行っています。各支部とも町会対抗で盛り上がるよ！

・夏のお祭りや秋の祭礼

地域によっては「盆踊り」や「夏祭り」、秋の「お神輿」などがあります。

・年末の夜警

各町会ごとに行っています。

・防災訓練

夏に行う「蕨市総合防災演習」と各町会などで行っている「防災訓練」があります。今は特に関心が高まっています。

その他、地域によって様々なイベントあり！

「地域のイベントに参加したら、ある人からしつこくボランティアに誘われた。それがきっかけなんだ。」

「あっ、俺も！〇〇さんだろ？」

「あの人、色んな人に声掛けてるんだよね(笑)。」

「でも、今は誘ってくれてありがたいって思ってる。こんないい仲間に出会えたんだから。」

日々の暮らしの中で

「ボランティアは、人のためにやるんじゃない。自分のためにやるんだ。自分のプラスになると思ってるし、自分が楽しいから続けるんだ。」

「うん。こういう活動って楽しいからやるんだよね。」

マンションが増え、転出入者が多い現状でも、まだまだ「地域のことは地元の人でないと」という傾向がみられるようです。こういう状況では、錦町の「おじさん」のように目的がはっきりしている集まりのほうが入りやすいのかもしれない。それがきっかけで、町会など幅広い地域活動につながるっていくのが、「新しいスタイル」と言えるでしょう。

実際に、ドッジボールの指導をきっかけに、町会の活動に関わりはじめた方も多くいました。はじめは、お神輿の担ぎ手や年末の夜警から。皆さん「チラシを見て参加した」そうで、チラシで募集するならメールアドレス付きが良いとのこと。連絡先と書いてある知らない人のところへ電話をするのはとても勇気がいるので…ということでした。

■取材を終えて■

地域で活躍する「おじさん」たちには、元気印の女性たちと共通するものがありました。それは、よくしゃべるということ。

今回、地域への思いを熱く語っていただいた、錦町でドッジボールを指導する9人の男性の皆さん。その顔はしっかりと「地元の人」でした。

父親・母親を楽しもうプロジェクト

外遊びを考える会「どろんこの王様」

小さくたって思いっきり遊ぼう！と未就園児対象のプレーパーク「けろっこぱーく」を、平日に月1回開催し、自然が残る広場で自由に遊びました。また、6・7月に「ロープワーク講習会」で大きなハンモック作り、11月は渋谷はるのおがわプレーパークへ遊びに、1月は講演会「『見守る』ことから生まれるもの」を行い、遊びのヒント、子どもとのいい距離感が必要ということ学びました。



未就園児対象プレーパーク「けろっこぱーく」。小さい子同士の関わりも、すぐに親が入らないで見守ってみて。子どもの世界が見えてきますよ。



「ロープワーク講習会」でハンモックを作っている様子。大きなハンモック完成を目指し、みんなで協力して一目一目編みました。

アウトメディア講演会

蕨市アウトメディア推進会議

7月16日(土)の「蕨市アウトメディア推進大会」で、「蕨市アウトメディア宣言」を発表。あわせて、古野陽一氏(NPO子どもとメディア専務理事・「子どもが未来」代表)を講師に迎え、「いま、アウトメディアに取り組むワケとは？」というテーマで講演会を行い、アウトメディア環境での子育ての大切さを学びました。

アウトメディア普及事業

蕨市男女平等推進市民会議

電子メディアは子どもたちの成長に大きな影響を与えており、そのかわり方が問題となってきています。私たちは、子どもたちの健やかな成長のため、電子メディアとの接触時間を減らす「アウトメディア」を推進しています。お父さん、お母さんや子どもたちに「アウトメディア」の大切さを理解してもらおうと、私たち自らが研修を受け、「蕨市アウトメディア指導員」として12名が地域での普及を進めています。

市民団体が行った男女共同参画事業

男女共同参画サポート研究委託事業

蕨市では、市民団体から提案された事業で、市と協働して行うにふさわしい事業を選び、提案した団体に委託することで、男女共同参画のまちづくりを進めています。

今年度は4つの団体が事業を実施しました。

シェイプアップマザーズ ~スペシャル~

塚越フレッシュママ応援団「ぷちとまと」

2月末に開催したシェイプアップマザーズ~スペシャル~。「自分のからだも大切に・・・」と産後1年以内のママたちにメッセージとエールを送って5年目になります。いつもの骨盤底筋体操+エアロビクスに加えて、今回はストレッチヨガを取り入れ盛りだくさん。自分のための時間を楽しみました。



編集後記

高齢化の著しい町会活動…。いま若い方たちの地域参加が望まれています。スポーツを通じてのボランティア活動で地域参加。今回の特集は、そんな1コマをドキュメントリタッチで取り上げてみました。地域の人に「こんにちは！」とあいさつを交わすだけでも立派な仲間です。さあ！今年はある方、若い力で地域を活性化させてみませんか。(〇)

★ただいま編集委員募集中です。

興味のある方、ぜひご連絡ください。

パートナー第42号

二〇二二年三月一日発行

企画編集 パートナー編集委員会

(蕨市市民生活部市民活動推進室内)

編集委員 大石圭子 押山節生 蔵迫祥子

竹口素弘 新妻朋子 杉山節子

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-4333-7745

Eメール siminst@city.warabi.saitama.jp

蕨市DV防止基本計画を策定しました

蕨市では平成24年2月に「蕨市DV防止基本計画」を策定しました。今後、この計画に基づき、配偶者等からの暴力の防止と被害者の支援に関する施策を進めていきます。

DV防止啓発パンフレットを作成しました

市民の皆様へDVの理解を深めていただくため、「DV」と「デートDV」防止の啓発パンフレットをそれぞれ作成しました。蕨市役所(市民活動推進室)で配布するほか、蕨市ホームページからもダウンロードできます。ぜひご覧ください。

